

優秀賞

ぼくのあじがねる人

茨城県 高萩市立秋山小学校二年 関根 光生

おじいちゃんの手は、しわがいっぱい、すみつぼのすみがしみこんでいる。この手から大きな家をつくっている大工さんです。

今、おじいちゃんは一人で、ぼくの家ぞくといっしょにすむための家をつくってくれています。ぼくはこの夏休みにてつだいをしました。ゆかにポンドをぬったり、くぎをならべます。おじいちゃんはすばやくゆかのいたをくぎでうちつけていきます。ぼくも大いそがしです。そうじきをかけて、ゆかにきずがつかないようにちゅういをします。ぼくはおちゃの時かんがたのしみです。道ぐで、しっぱいをして、やけどをしてしまった日もありました。おじいちゃんも道ぐでケガをすることもあるそうです。おじいちゃんに大工の道ぐを聞いてみたら、「すみつぼ、かんな、のこぎり、のみ、やすり、それにインパクト。ほかにもいっぱいある。」

と聞いていました。たくさんの道ぐをおぼえるのも大へんだなあと思いました。新しい家にはおじいちゃんのこだわりがたくさんあります。その一つは、からかさ天井です。りっぱなしょく人しかできないわざだといっていました。本もののかさのようです。ほかにもわざをつかっています。十五さいのときからしょく人をはじめたそうです。はじめはかぐしょく人で、そのあと大工になったそうです。今までにかぞえきれないほどの家をつくってきました。時にはのこぎりがおちてきて、あぶない時もあったと言っていました。いろいろなけいけんをして、今もべんきょう中というおじいち

ゃんがすごいと思いました。それから、十五さいからしょく人として、四十年はたっていることにもびっくりしました。一つの道をずっとがんばることはえらいなあと思いました。

ぼくは、おじいちゃんをそんけいしていません。もっとおてつだいをして、いろいろなことをしりたいです。人に家をつくってあげて、おじいちゃんは、かんどうをあげる人だとわかりました。

「からだに気をつけて、おじいちゃん。」